

平成28年度人権啓発講演会(辻井いつ子さん)講演概要

新宮市では平成28年10月8日、新宮市福祉センターにおいてピアニスト辻井伸行さんの母・辻井いつ子さんをお迎えし、～明るく、楽しく、あきらめない～「子どもの才能の見つけ方、伸ばし方」をテーマに講演会を開催しました。会場には超満員となる350人が訪れ、世界に羽ばたくピアニストが誕生した経緯など、辻井さんの話に熱心に耳を傾けていました。

また、アンケートも実施し、約70%の方からご協力をいただきました。その中で、「心が暖くなる講演でした」「ダメ元、ポジティブ、前向きな姿勢に共感します」「素晴らしいお話で、感動しました」などの感想が寄せられています。詳しくは、一覧表のアンケート欄をクリックしていただきますと、アンケート集計結果のPDFファイルがご覧いただけます。



辻井さんは、長男・伸行さんが生後まもなく全盲と分かり、絶望と不安のなか、育児書や子育てマニュアルが全く役に立たないところから、手探りで子育てをスタート。悩んでいた時に『フロックスはわたしの目―盲導犬と歩んだ十二年』という本に出会い、著者の福澤美和さんから直接「健常児と同じように育てればいい」とアドバイスを受け、考え方が変わった。「見えないということを意識しないで接すること」―辻井さんは伸行さんを育てる際に、そう心がけていたと話した。これまで連れて行ってなかった花見や美術館、花火へ行くようになり、伸行さんは顔に花びらがあたる時季の花見が好きになり、「今日の風は何色？」と質問するようにもなった。



伸行さんに音楽の才能があることに気づいたのは、彼が生後8か月の時、クラシックピアノのCDショパンの「英雄ポロネーズ」をかけたところ、「喜び方が半端じゃなかった」ということで、毎日かけていた。

伸行さんがピアニストを目指すきっかけは5歳の時、サイパン旅行に言った際、ショッピングセンターにグランドピアノが置いてあり、その演奏を聴いているうちに自分もそのピアノを弾きたくなり、店員に頼んだところ快諾。レッスンで習っていた「渚のアデリーナ」という曲を演奏すると、周りの買い物客が集まってきて大きな称賛を受けた。「その時の伸行の笑顔を見た時に、もしかしたら、ピアノが彼に光を与えてくれるかもしれないと思った」と話した。



伸行さんの人生の中で大きかったのは、中学生の時の指揮者・佐渡裕さんとの出会い。その後、より熱心に練習に打ち込むようになった。そして、伸行さんが20歳の時に出場した国際コンクール「ヴァン・クライバーンコンクール」で日本人初の優勝を果たした。辻井さんは、「20年間頑張ったことへの神様からのプレゼントだと感じた瞬間で、人間としての可能性を感じた瞬間でもある」と述べました。

最後に、「可能性を信じてあげられるのは親だけ。彼がやりたいと思うことを支えてあげること。笑顔でいてくればいというところからスタートしたが、人間の持っている力は無限大なんだと感じました」と話しました。